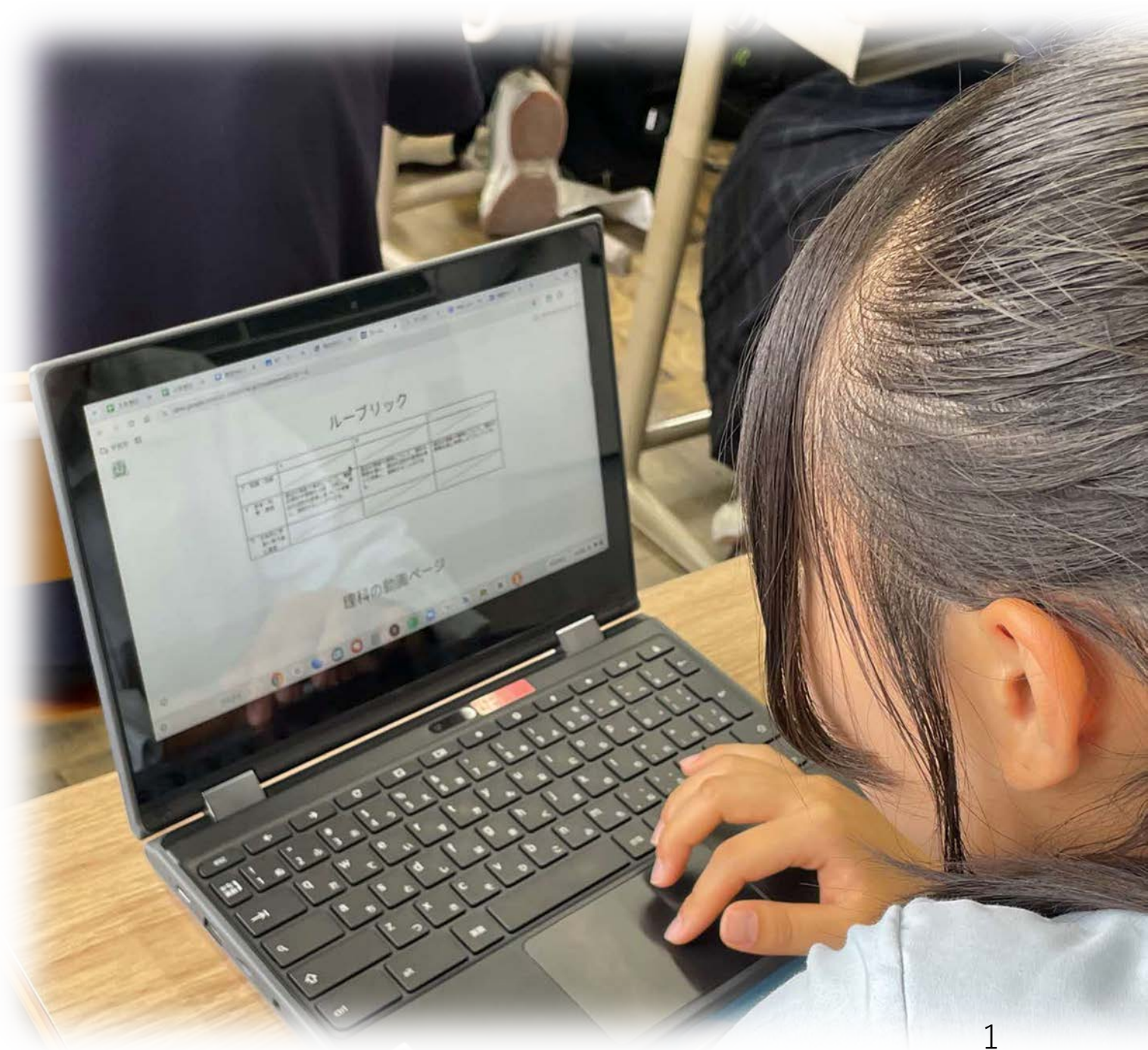


学校における ICT利活用の 現状及び課題

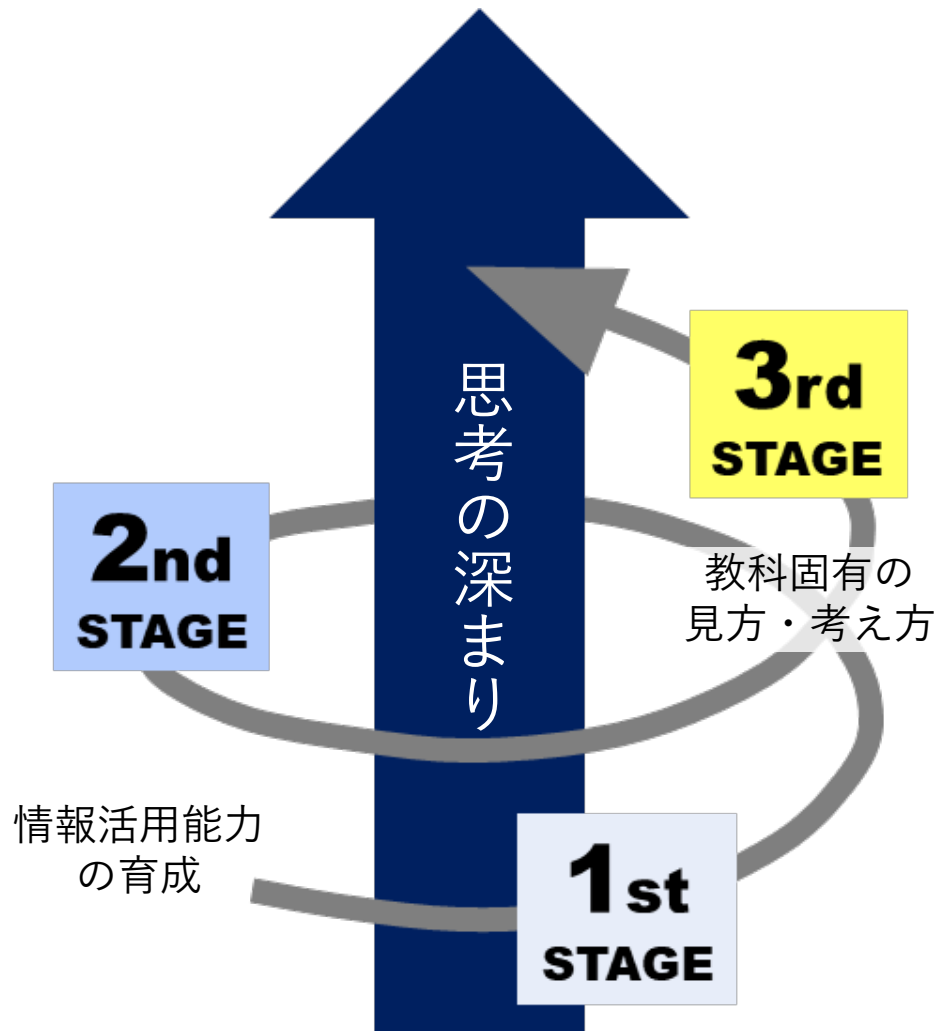
足立区総合教育会議

教育指導部 学校ICT推進課



これからの授業スタイル

令和7年4月策定 足立区教育DXプラン



1st STAGE まずはICTを使ってみる

- 黒板に紙で貼っていた写真等を児童・生徒の端末にデータで送る。
- 模造紙の代わりにクラウド上のプレゼンテーション作成用のアプリケーションを活用したプレゼンテーションを行う。
- 配付用紙やノートの代わりにクラウド上の集計用のアプリケーションによる振り返りを行う。

➡ ICTを使う習慣をつけて、授業が充実！

2nd STAGE 「ICTならではの」を試す

- 児童・生徒が考えをまとめるにあたり、クラウド上のホワイトボードアプリケーションで他の人の考えも参考にできるようにする。
- 児童・生徒一人ひとりの学習状況をクラウド上の表計算アプリケーションを活用してクラス内に共有することで、クラス全体のボトムアップを図る。

➡ ICTを使うことで、授業の幅が広がる！

3rd STAGE 児童・生徒の学びを引き出す(意欲・やる気)

- 児童・生徒一人ひとりが自分の課題を設定し、自分で決めた取り組み方で学ぶことで、学習意欲ややる気引き出される。

➡ ICTを使うことで意欲を引き出し、
児童・生徒の学びを深める！

目指す授業スタイル

令和7年4月策定 足立区教育DXプラン

個別最適な学び

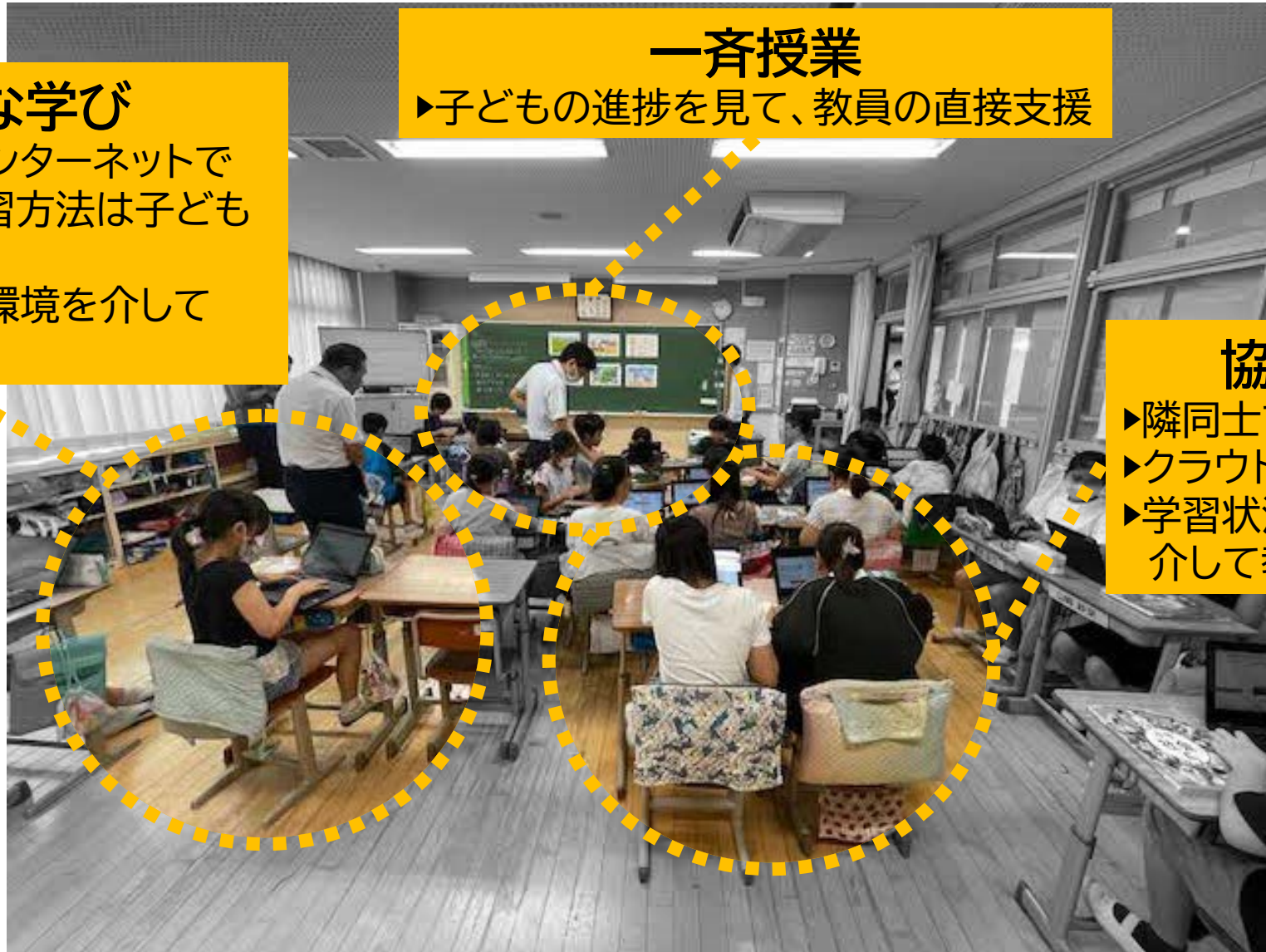
- ▶教科書で調べたりインターネットで検索したりなど、学習方法は子ども自身で決定
- ▶学習状況はクラウド環境を介して教員が把握

一斉授業

- ▶子どもの進捗を見て、教員の直接支援

協働的な学び

- ▶隣同士で直接的な協働
- ▶クラウド環境を介した協働
- ▶学習状況はクラウド環境を介して教員が把握



小学校の現状

令和6年度 全国学習状況調査結果より

■調査対象学年
小学6年生

■文部科学省KPI達成基準
週3回以上使用させている学校の率(指標①②ともに)

| <div>指標② 児童同士 がやりとり する場面</div> <div>【協働的な学び を測る指標】</div> | ほぼ 毎日 | 0校 | 0校 | 4校 | 到達目標(目指す姿) | |
|--|-----------|-----------|-----------|-----------|------------|----------|
| | 週3回 以上 | 0校 | 0校 | 1校 | 5校 | 11校 |
| | 週1回 以上 | 1校 | 2校 | 8校 | 2校 | 1校 |
| | 月1回 以上 | 0校 | 0校 | 5校 | 3校 | 2校 |
| | 月1回 未満 | 0校 | 1校 | 2校 | 0校 | 0校 |
| | | 月1回 未満 | 月1回 以上 | 週1回 以上 | 週3回 以上 | ほぼ 毎日 |
| <div>指標① 児童が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面</div> <div>【個別最適な学びを測る指標】</div> | | | | | | |

2項目達成学校

35校
／67校

2項目未達成学校

19校
／67校

半数以上の学校は
週3回以上活用している

中学校の現状

令和6年度 全国学習状況調査結果より

■調査対象学年 中学3年生
■文部科学省KPI達成基準 週3回以上使用させている学校の率(指標①②ともに)

| | | | | | | |
|--|-----------|-----------|-----------|-----------|------------|----------|
| <div>指標② 生徒同士 がやりとり する場面</div> <div>【協働的な学び を測る指標】</div> | ほぼ 毎日 | 0校 | 0校 | 2校 | 到達目標(目指す姿) | |
| | 週3回 以上 | 0校 | 1校 | 3校 | 3校 | 1校 |
| | 週1回 以上 | 0校 | 0校 | 3校 | 2校 | 4校 |
| | 月1回 以上 | 1校 | 1校 | 3校 | 1校 | 1校 |
| | 月1回 未満 | 0校 | 1校 | 1校 | 1校 | 0校 |
| | | 月1回 未満 | 月1回 以上 | 週1回 以上 | 週3回 以上 | ほぼ 毎日 |
| <div>指標① 生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面</div> <div>【個別最適な学びを測る指標】</div> | | | | | | |



毎日使う学校もあれば
月1回程度の学校もあり、
活用状況の差が大きい

なぜ活用頻度に差(学校間格差)が生まれるのか



要因 ①
スキル(管理職・教員)



ICTを使いこなすための教員の技術的な能力の差



要因 ②
マインド(管理職・教員)



ICT活用に対する管理職・教員の意識や心理的なハードル



要因 ③
組織・校内体制



学校全体でICT活用を推進する管理職のマネジメント力

これらの要因が相互に絡み合い、格差を固定化させている

要因に対する対応策



対応策 ①
スキル (管理職・教員)



教員研修

ICT育成プログラムの実施
(Google認定教育者資格取得研修)



対応策 ②
マインド (管理職・教員)



NEW

教育DXアドバイザーの巡回 (管理職をサポート)

令和7年度実績 54校(4月～7月)

■対応策②

活用が進んでいない学校を中心に、
管理職への意識啓発を支援

■対応策③

学校においてICT活用を推進してきた
経験を活かし、組織作りに関する指導・助言



対応策 ③
組織・校内体制

ICT支援員の配置

1校あたり週2.5回
(週2回:16校 週3回:22校 週4回:64校)

操作支援、授業準備、教材作成の
サポートや校内研修でのスキル支援

研究校とし
て実践する



GIGAスクール推進研究校

令和7年度 小学校:6校 中学校:9校

■対応策②

中学校の推進研究校を6ブロックから選出し、
ICTの研究を推進(教員一人ひとりがICTの
活用に向き合う場面の提供)

■対応策③

組織づくりや管理職のリーダーシップ、
リーダーの役割など推進研究校の事例紹介



研究校から
学ぶ

まとめ - 格差解消のポイント

「教員のスキル向上」と「組織的な推進」の両輪が不可欠

